

(提案13)

公開シンポジウム「安全工学シンポジウム2015」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
2. 共 催（予定）：  
土木学会\*、安全工学会、化学工学会、火薬学会、計測自動制御学会、自動車技術会、静電気学会、地域安全学会、電気学会、電気化学会、電気設備学会、電子情報通信学会、日本化学会、日本火災学会、日本機械学会、日本技術士会、日本計算工学会、日本原子力学会、日本建築学会、日本高圧力技術協会、日本航空宇宙学会、日本材料学会、日本シミュレーション学会、日本信頼性学会、日本心理学会、日本船舶海洋工学会、日本鉄鋼協会、日本人間工学会、日本燃焼学会、日本非破壊検査協会、日本溶接協会、日本冷凍空調学会、廃棄物資源循環学会（\* 幹事学会）
3. 日 時：平成27年7月2日（木）～7月3日（金）
4. 場 所：日本学術会議講堂 外5室（東京都港区六本木7-22-34）
5. 分科会の開催：開催予定なし
6. 開催趣旨：  
わが国における安全に関する学際的なシンポジウムとして学術会議主催で40年以上にわたり継続して実施されてきている。毎年幹事学会が順番で担当し実行委員会を組織しテーマを決めて実施する。平成27年度は、第45回として土木学会が幹事学会となり企画・運営を行い、「安心・安全な社会サイクルの構築」のテーマのもと開催される。共催学会名にみられるように多分野の研究者の発表の場であり、意見交換の場ともなっている。異分野間での安全に対する取り組みの差異、あるいは共通する理念について有意義な意見交換が期待でき、学術会議総合工学委員会、安全・安心・リスク検討分科会で進めている「安全の理念」、「安全目標」、「交通事故ゼロの達成」、「遺棄・老朽化学兵器」の検討成果の広く一般への発表がなされ、多分野の専門家からの意見集約も期待できる。
7. 次第（案）：  
【第1日目：7月2日（木）】  
○ 挨拶 12:50～13:00

日本学術会議総合工学委員長

渡辺美代子（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人科学技術振興機構行役）

安全工学シンポジウム 2015 実行委員長

白木 渡（香川大学危機管理研究センター特任教授・センター長）

- 特別講演 12:50～14:00  
「海外建設プロジェクトの安全（仮題）」  
廣瀬 典昭 氏（土木学会会長、日本工営(株)代表取締役会長）
- パネルディスカッション 14:20～17:20  
PD-1「安心・安全な社会サイクルを構築するためには（仮）」  
コーディネーター・司会：未定
- オーガナイズドセッション(OS-1 ～ OS-1-7) 9:30～12:00  
OS-1「超成熟社会に向けた自動運転・高度運転支援システムの取り組み」 他  
永井 正夫\*（日本学術会議連携会員、日本自動車研究所代表理事・研究所長）
- オーガナイズドセッション(OS-4 ～ OS-4-7) 14:20～15:40  
OS-4「災害に対する強靱な社会づくりとそれを支える安全教育」 他  
広兼 道幸（関西大学総合情報学部教授）  
磯打千雅子（香川大学危機管理研究センター特命准教授）
- その他、OS、一般セッションを 9:30～17:40 に開催。

【第2日目：7月3日（金）】

- 特別講演 1 13:00～14:00  
調整中
- パネルディスカッション 14:20～17:20  
PD-2「工学システムに対する社会の安全目標」  
コーディネーター・司会：  
松岡 猛\*（日本学術会議第三部会員、宇都宮大学非常勤講師）
- オーガナイズドセッション(OS-8 ～ OS-8-5) 9:30～11:35  
OS-8「自動車火災の動向と対策」 他  
渡邊 憲道（科学警察研究所火災研究室法科学第二部主任研究員）
- オーガナイズドセッション(OS-12 ～ OS-12-3) 14:20～15:50  
OS-12「防災と人間工学」 他  
佐相 邦英（（一財）電力中央研究所ヒューマンファクター研究センター上席研究員、（一社）日本人間工学会安全人間工学委員会委員）
- その他、OS、一般セッションを 9:30～17:20 に開催。

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(\*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案 1 4)

公開シンポジウム「学士課程における統計学分野の参照基準を考える」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議 数理科学委員会 統計学分野の参照基準検討分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：統計関連学会連合、日本数学会、日本応用数理学会
4. 日 時：平成 27 年 7 月 9 日（木）13：30～17：10
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

学士課程における統計学教育の質保証のための参照基準の策定の作業が進んでいる。参照基準案について広く議論し、学士課程における統計学教育の質保証についての共通の理解を得ることを目的とする。

8. 次 第：

司会 田栗 正章\*（日本学術会議連携会員、中央大学客員教授）

13:30～13:40 開会挨拶

竹村 彰通\*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報理工学系研究  
科教授）

13:40～14:00 「学術会議の分野別参照基準の考え方」

北原 和夫\*（日本学術会議特任連携会員、東京理科大学大学院科学教育  
研究科教授）

14:00～14:40 「統計学分野の参照基準案に関する分科会報告」

竹村 彰通\*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報理工学系研究  
科教授）

14:40～15:10 「社会のためのデータサイエンス力の高い人材育成」

須江 雅彦（総務省統計研修所長）

15:10～15:30 休憩

15:30～17:00 パネルディスカッション

パネリスト

竹村 彰通\*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報理工学系研究  
科教授）

須江 雅彦（総務省統計研修所長）

岩崎 学（成蹊大学理工学部教授）

森田 康夫（日本学術会議第三部会員、東北大学教養教育院総長特命教授）

田辺 隆人（株式会社 NTT データ数理システム取締役）

17:00～17:10 総括討論

田栗 正章\*（日本学術会議連携会員、中央大学客員教授）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(\*印の講演者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「原子力総合シンポジウム 2015」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会
2. 共 催：  
日本原子力学会\*、エネルギー・資源学会、化学工学会火力原子力発電技術協会、空気調和・衛生工学会 計測自動制御学会、原子力安全研究協会、資源・素材学会、電気化学会電気学会、土木学会、日本アイソトープ協会、日本医学放射線学会、日本化学会、日本核医学会日本機械学会、日本技術士会、日本建築学会、日本高圧力技術協会、日本シミュレーション学会、日本セラミックス協会、日本地球化学会、日本地質学会、日本電気協会、日本非破壊検査協会、日本複合材料学会、日本分析化学会、日本放射化学会、日本放射線影響学会、日本放射線技術学会、日本保健物理学会、日本溶接協会、日本流体力学会、プラズマ・核融合学会、粉体粉末冶金協会、溶接学会レーザー学会 (\* 幹事学会)
3. 日 時：平成 27 年 7 月 16 日 (木) 10:00~17:30
4. 場 所：日本学術会議講堂 外 5 室
5. 分科会の開催：開催予定なし
6. 開催趣旨：  
福島第一原子力発電所の事故により、発電所周辺地域の広範な放射能汚染が引き起こされ、今なお、多くの方々が避難を余儀なくされる事態が続いている。また、事故炉の廃止措置に向けての作業は、かつて経験のない困難な課題の中、進められているが、今後長期に亘る継続的な努力を必要としている。  
このような中、日本学術会議総合工学委員会は、原子力のみならず他の技術分野の工学施設におけるリスクに着目し、「工学システムに対する社会の安全目標」を取りまとめた。この検討結果を踏まえ、今後、先端技術を用いた巨大複雑システムの利用が社会に受け入れられるための安全の考え方について考察する。  
また、原子力技術に焦点を当て、その利用が社会にもたらす可能性についても、提言「研究用原子炉のあり方について」（平成 25 年 10 月 16 日日本学術会議基礎医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会）を踏まえ原子力技術の可能性とそれを支える研究施設のあり方、更には放射線利用のビジョンを紹介し、原子力技術の利用が社会にもたらすものとそれに伴うリスクとの関係について議論する。

7. 次 第：

司会：矢川 元基\*（日本学術会議連携会員、公益財団法人原子力安全研究協会理事長、東京大学名誉教授）

10：00 開会の辞

渡辺美代子\*（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人科学技術振興機構執行役）

挨拶

大西 隆（日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）

（第1部）講演 I

10：20 工学システムのリスクと安全目標の考え方

松岡 猛\*（日本学術会議第三部会員、宇都宮大学非常勤講師）

10：40 化学プラントの安全目標と安全確保の考え方

中村 昌允（東京工業大学イノベーションマネジメント研究科 客員教授）

11：20 原子力安全とレジリエンス

関村 直人（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

12：00－13：30 （ 休憩 ）

（第2部）講演 II

13：30 原子力学の将来検討

家 泰弘（日本学術会議連携会員、東京大学物性研究所教授）

14：00 原子力技術の可能性とそれを支える研究用原子炉のあり方

柴田 徳思（日本学術会議連携会員、日本アイソトープ協会専務）

14：30 核変換科学工学の新展開

藤田 玲子（日本原子力学会会長、東芝電力・社会システム技術センター首席技監）

15：00－15：15 （ 休憩 ）

（第3部）パネル討論「原子力研究設備と人材育成/教育」

15：15－17：15

ファシリテーター：

上坂 充（東京大学大学院工学系研究科原子力専攻教授）

パネリスト：

中西 友子（日本学術会議特任連携会員、内閣府原子力委員会委員）

川端 祐司（京都大学原子炉実験所粒子線基礎物性研究部門教授）

浜崎 学（日本原子力学会教育委員長、三菱重工原子力技術部次長）

17：15 閉会挨拶

藤田 玲子（日本原子力学会会長）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(\*印の講演者は、主催委員会委員)

(提案16)

公開学術講演会「感染症との闘い」の開催について

1. 主 催：日本学術会議第二部、北海道地区会議
2. 共 催：北海道大学
3. 後 援（申請予定）：  
北海道新聞社、日本医歯薬アカデミー、公益財団法人日本学術協力財団
4. 日 時：平成27年8月5日（水） 13:30～16:30
5. 場 所：北海道大学医学部学友会館「フラテ大ホール」（札幌市）
6. 部会の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨

感染症は有史以前から人々を苦しめ、新興感染症などその脅威は今も変わっておらず、感染症との闘いは続いている。例えば、昨年起こった西アフリカでのエボラウイルスの流行では、致死率の高さから世界を恐れさせた。しかし、むやみに感染症を恐れるのではなく、科学的にこれと闘うことが重要である。

今回は、今問題となっている感染症に焦点を当てて、これと闘う一線の研究者に講演頂き、感染症に対する理解を深めるために企画した。

8. 次 第

(司会) 上田 一郎\* (日本学術会議第二部会員、北海道大学理事・副学長)

13:30 開会挨拶

大西 隆 (日本学術会議会長・第三部会員、豊橋科学技術大学学  
長、東京大学名誉教授)

山口 佳三 (北海道大学総長)

13:40 講演 「”鳥”インフルエンザと”新型”インフルエンザの誤解を解く」

喜田 宏 (北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター教授)

14:20 講演 「アジアに出現した新興感染症 ―ニパウイルス感染症―」  
甲斐知恵子\*（日本学術会議第二部会員、東京大学医科学研究所教授）

15:00－15:10 （休憩）

15:10 講演 「エボラウイルス ―研究の現状と展望―」  
高田 礼人（北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター教授）

15:50 講演 「『多剤耐性菌』にいかに向かい合うか」  
石黒 信久（北海道大学病院感染制御部長）

16:30 閉会  
笠原 正典（北海道大学医学研究科長）

（\*印の講演者等は主催部会員・主催地区会議構成員）

(提案17)

公開シンポジウム「三陸から農林水産業の未来を考える～大震災の経験を糧に」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 農学委員会、食料科学委員会
2. 共 催：日本農学アカデミー、北里大学海洋生命科学部、大船渡市（予定）
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成27年8月8日（土）13：00～17：40
5. 場 所：大船渡市民文化会館・市立図書館
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

平成23年に発生した東日本大震災と大津波は三陸地方に非常に大きな被害をもたらしたが、復興への力強い歩みが続いている。わが国の農林水産業には震災前でも種々の課題が山積していたが、三陸地方も例外ではなかった。しかしながら、地方の活性化に果たす農林水産業の役割は依然として大きく、この役割をどのように発展させるかがわが国全体の将来を左右するといっても過言ではない。復興途中ではあるものの、大津波の被害が最も大きかった地域の一つである大船渡市にて、周辺地域も含めた震災後の取組みの実態を学び、わが国の農林水産業の再生と将来の発展に生かすことは重要であるとして企画した。

8. 次 第：

13：00 開会の挨拶-1

大政 謙次\*（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

13：10 開会の挨拶-2

戸田 公明（大船渡市長）

13：20 日本農業の諸課題

小田切徳美\*（日本学術会議第二部会員、明治大学農学部教授）

13：50 耕地計画からみた農業の未来

澁澤 栄\*（日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究院教授）

- 14 : 20 津波に耐える土  
南條 正巳\* (日本学術会議第二部会員、東北大学大学院農学研究科教授)
- 14 : 50 これからの林業・林産業  
川井 秀一\* (日本学術会議第二部会員、京都大学大学院総合生存学館(思修館)学館長)
- 15 : 20-15 : 30 ( 休憩 )
- 15 : 30 三陸沿岸海域の環境保全と水産業の未来  
緒方武比古 (北里大学副学長)
- 16 : 00 畜産学が拓く畜産業の未来  
佐藤 英明\* (日本学術会議第二部会員、独立行政法人家畜改良センター理事長)
- 16 : 30 食品産業の未来  
清水 誠\* (日本学術会議第二部会員、東京農業大学応用生物科学部教授)
- 17 : 00 総合討論 (質疑)  
(司会) 渡部 終五\* (日本学術会議第二部会員、北里大学海洋生命科学部教授)
- 17 : 30 閉会の挨拶  
菅野 信弘 (北里大学海洋生命科学部長)
- 17 : 40 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(\*印の講演者は、主催委員会委員)

## (提案18)

公開シンポジウム「震災復興の今を考える：こども・文化・心をつないで」の開催について

1. 主催：日本学術会議 第一部
2. 共催：福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
3. 後援：科学研究費基盤研究S「東日本大震災を契機とした震災復興学の確立」、日本宗教研究諸学会連合
4. 日時：平成27年8月10日（月）13：00～17：00
5. 場所：福島市AOZ（福島市役所アクティブシニアセンター・アオウゼ）内多目的ホール
6. 部会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

日本学術会議は、3.11以来、震災と原発事故、防災と減災、復興の方法など様々な課題と取り組んできたが、科学への信頼の回復をはじめなお多くの課題をかかえており、人文社会系の研究者で構成する第一部も、公開シンポジウムの開催や福島訪問を含め、継続的に取り組んできたところ。しかし一方で、震災の風化が始まっていることも事実である。

そこで、第一部は昨年10月に発足した第23期では、所属会員の半数が交代したことを踏まえ、現実を直視しながら、復興にむけて何ができるかを人文社会系の立場からあらためて考えようという趣旨から、最初の夏季部会を福島で開き、「震災復興の今を考える」というテーマで公開シンポジウムを開催することとしたい。これを機会に人文社会系諸学の新たな展開を図るという意図から、今回は、これまで我々が取り上げてこなかった被災地における子どもの教育、文化資源の保護と活用、被災者の心のケアなど、いずれも人文社会系の特性にかなったテーマで行うこととする。シンポジウムではこれまでこれらの活動に取り組んでこられた方々のお話を伺うことにより、市民と会員がともに考える機会となることに期待したい。

8. 次第：

12：30 開場

13：00～13：10

趣旨説明 小松 久男\*（日本学術会議第一部会員、東京外国語大学大学院  
総合国際学研究員特任教授）

開会挨拶 中井 勝己（福島大学学長）  
小森田秋夫\*（日本学術会議第一部会員、神奈川大学法学部教授）

13:10～13:50

基調講演「生活の回復に向けた住民の協働」  
今野 順夫（福島復興支援フォーラム代表、福島大学名誉教授）

13:50～14:00 休憩

14:00～15:30

報告1 「子ども支援を通して見えてきたこと」  
本多 環（福島大学特任教授・うつくしまふくしま未来支援  
センター子ども支援担当）

コメント：志水 宏吉\*（日本学術会議第一部会員、大阪大学大学院人間科  
学研究科教授）

報告2 「文化財救援活動をつうじてみる福島の復興と課題」

菊地 芳朗（福島大学行政政策学類教授・うつくしまふくしま未来支援  
センター歴史資料担当マネジャー）

コメント：高埜 利彦\*（日本学術会議第一部会員、学習院大学文学部教授）

報告3 「ほつれる心：いわき市の母親・川内村の高齢者・郡山市の教会」

川上 直哉（日本基督教団仙台北三番丁教会担任教師、NPO 法  
人被災支援ネットワーク「東北ヘルプ」事務局長）

コメント：岡田真美子\*（日本学術会議第一部会員、中村元記念館東洋思想  
文化研究所研究員）

15：30～45分 休憩

15：45～16：50 パネル・ディスカッション

パネリスト：

今野 順夫（福島復興支援フォーラム代表、福島大学名誉教授）

本多 環（福島大学特任教授・うつくしまふくしま未来支援  
センター子ども支援担当）

菊地 芳朗（福島大学行政政策学類教授・うつくしまふくしま  
未来支援センター歴史資料担当マネジャー）

川上 直哉（日本基督教団仙台北三番丁教会担任教師、NPO 法

人被災支援ネットワーク「東北ヘルプ」事務局長)

司 会 : 山川 充夫\* (日本学術会議第一部会員、帝京大学経済学部教授)

16:50~17:00

閉会挨拶 中田スウラ (福島大学うつくしまふくしま未来支援センター  
長・人間発達文化学類教授)

(\*印の登壇者は、主催部会員)

## (提案19)

公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム2015 福島ワークショップ」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会  
合同東日本大震災に係る食料問題分科会、食の安全分科会、農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム学分科会、農芸化学分科会、農学委員会農業経済学分科会、食料科学委員会水産学分科会、畜産学分科会
2. 後 援：日本農学アカデミー、日本水産学会、日本畜産学会、日本農業経済学会、日本農芸化学会、農業食料工学会、日本リスク研究学会、福島県立医科大学、長崎大学福島未来創造支援研究センター、東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコクーン、北里大学海洋生命科学部、神奈川保健福祉大学（予定）
3. 日 時：平成27年8月22日（土）13：00～17：50
4. 場 所：コラッセ福島（福島市）
5. 分科会の開催：開催予定
6. 開催趣旨：

東日本大震災から4年が経過し、東京電力福島第一原発事故からの復興も新たな局面を迎えようとしている。

事故当時大量の放射能が広範囲に拡散し、森林、土壌、水域が汚染され、食料資源の生産現場に大きな被害をもたらしているが、その後の食の安全モニタリングの普及により市場には厳しい安全規制をクリアした食品しか流通していないところ。

また、環境放射能レベルも確実に減少している一方で、今なお現存被ばく状況下にある地域では、日常活動への不安、帰還帰村における難題の渦中にあり、食料生産活動や流通そのものものは未だ復興から遠いものがある。

4回目となる本フォーラムは、食料生産現場の放射能汚染からの回復状況を科学的に検証すると同時に、福島県民に寄り添いつつ風評と風化という相反する課題に取り組み、現場の生産者や事業者を交えて議論する。
7. 次 第：

13:00~13:10 開会の挨拶

渡部 終五\*（日本学術会議第二部会員、北里大学海洋生命科学部教授）

13:10~13:30 農作物の放射能汚染と今後の課題（仮）

万福 裕造（国立研究開発法人国際農林水産業研究センター企画調整部技術促進科科长）

13:30~13:50 放射性セシウムの土壌中の挙動と水系への流出

塩沢 昌（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

13:50~14:10 原発事故に起因する放射性核種が持続可能な有畜循環型農業におよぼす影響

眞鍋 昇\*（日本学術会議連携会員、大阪国際大学教授）

14:10~14:30 農業従事者からの報告（仮）

鈴木 正美（矢祭町農業法人でんぱた取締役）

14:30~14:50 家庭の食事からの放射性物質摂取量調査結果について

山越 昭弘（日本生活協同組合連合会商品検査センター長）

14:50~15:10 漁業再開に向けた取り組み（仮）

阿部 庄一（相馬双葉漁業協同組合参事）

15:10~15:20

休憩

15:20~15:40 放射能・放射線と健康リスクを考える

山下 俊一\*（日本学術会議第二部会員、長崎大学理事・副学長）

15:40~16:00 放射性物質の健康リスク：市民の知覚とリスクコミュニケーションの可能性

新山 陽子\*（日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授）

16:00~16:20 フードセキュリティーと学校給食（仮）

中村 丁次（神奈川保健福祉大学長）

16:20~16:40 産地の共同作業の意義と風評被害の実態

数又 清市（伊達みらい農業協同組合常務理事）

16:40~17:40 総合討論

司会

中嶋 康博\*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

17:40~17:50 閉会の挨拶

澁澤 栄\*（日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究院教授）

## 8. 関係各部の承認有無：第二部承認

(\*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案20)

市民公開講演会「市民に向けた巨大津波の最先端科学と正しい防災知識」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議第三部、中国・四国地区会議
2. 共 催（予定）：高知工科大学
3. 後 援（予定）：  
公益財団法人日本学術協力財団、工学系6学会長連携会議（土木学会、日本建築学会、日本機械学会、電気学会、計測自動制御学会、情報処理学会）、  
四国国立5大学防災会議
4. 日 時：平成27年8月26日(水)14:00～17:00
5. 場 所：高知工科大学 永国寺キャンパス 本部・教育研究棟（高知市）
6. 部会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：  
第三部が夏季部会を高知で開催するにあたり、第三部と中国・四国地区会議  
とが主催で一般市民を対象とした講演会を開催する。  
東日本大震災を経験し、南海トラフ巨大地震津波の発生が懸念されているが、  
一般市民が津波を正しく理解し、恐れ、備えているとは必ずしも言えない。津  
波に関する科学の最先端を市民にわかりやすく伝え、合理的に災害に備えられ  
るようにすることを目的とする。
8. 次 第：  
14:00 開会  
司 会  
土井美和子\*（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人情報通信研究  
機構監事）  
14:00 開会挨拶  
相原 博昭\*（日本学術会議第三部会員、東京大学副学長・大学院理学系

研究科教授)

14 : 05 日本学術会議会長挨拶

大西 隆\* (日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長、  
東京大学名誉教授)

14 : 15 東日本大震災からの復興—構想と課題

大西 隆\* (日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長、  
東京大学名誉教授)

14 : 45 巨大津波の発生と伝播の科学 (仮題)

馬場 俊孝 (徳島大学工学部教授)

15 : 15 巨大津波への防災態勢 (仮題)

目黒 公郎 (日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授)

15 : 45～15 : 55 (休憩)

15 : 55 パネルディスカッション「津波災害に正しく備える」

司会

磯部 雅彦\* (日本学術会議第三部会員、高知工科大学学長)

パネリスト

登壇者

16 : 55 閉会挨拶

観山 正見\* (日本学術会議第三部会員、広島大学学長室特任教授)

17:00 開会

(\*印の講演者は、主催部会員・主催地区会議構成員)

## (提案 21)

公開シンポジウム「ロボット革命実現に向けて」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 機械工学委員会 ロボット学分科会

2. 共 催：一般社団法人日本ロボット学会

3. 日 時：平成 27 年 9 月 3 日（木）13：00～17：00

4. 場 所：東京電機大学  
（日本ロボット学会第 33 回学術講演会開催会場にて開催）

5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

ロボット革命実現会議からロボット新戦略が提案された。この中では少子高齢化での人手不足解消やサービス部門での生産性の向上などにロボットを活用し、日本の成長産業とする指針が示された。本シンポジウムでは、日本におけるロボット革命の今後の課題を明確にし、確実にロボット革命を実現するための方策を広く議論することを目的とする。

7. 次 第：

13：00 開催趣旨 ロボット革命実現に向けた方策

川村 貞夫\*（日本学術会議連携会員、立命館大学理工学部教授）

13：30 日本のロボット革命実現に向けて

佐脇紀代志（経済産業省製造産業局産業機械課課長兼ロボット産業機械課課長）

14：00 ロボットビジネス実現に向けて

石黒 周（(株)グランドデザインワークス代表取締役会長、千葉工業大学  
未来ロボット技術研究センター副所長）

14：30 日本の産業用ロボットの今後の世界戦略

小平 紀生（三菱電機株式会社 F A システム事業本部機器事業部主席技監）

15：00－15：15（休憩）

15：15 ロボット実用化に向けて

平田雄一郎（平田機工株式会社代表取締役社長）

15：45 総合討論

（司会）

浅間 一\*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教授）

17：00 閉会

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（\*印の講演者は、主催分科会委員）

## (提案 2 2)

公開シンポジウム「ロボット技術者教育の課題と解決法を探る」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 機械工学委員会 ロボット学分科会

2. 共 催：一般社団法人日本ロボット学会

3. 日 時：平成 27 年 9 月 5 日（土）13：30～17：00

4. 場 所：東京電機大学  
（日本ロボット学会第 33 回学術講演会開催会場にて開催）

5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

日本の製造業、サービス業、医療・福祉、宇宙海洋開発、社会インフラ管理、福島廃炉作業などに、ロボットの大幅な利用が期待されている。そのためには、ロボットの新しい利用方法、ニーズに合致した新しいロボット開発などが必要となっている。このような目的を達成するためには、ロボティクス分野において、有能なロボット技術者を、一定数の規模で長期的視点にたって育成することが必須となる。一方、ロボティクスは学術的に新しく、日々成長している分野でもあり、その教育方法が確立したとは言い難い。本シンポジウムでは、ロボット技術者教育の課題を議論し、その解決法に迫ることを目的として開催する。

7. 次 第：

13：30 開催趣旨

川村 貞夫\*（日本学術会議連携会員、立命館大学理工学部教授）

13：40 ロボット技術者養成の課題と解決法

佐藤 知正（東京大学名誉教授）

14：10 ニーズに基づく製造業のロボット化のための人材育成

琴坂 信哉（埼玉大学大学院理工学研究科人間支援・生産科学部門准教授）

14：40 優れたロボット SIer の養成法に関するアンケート調査結果

日本ロボット学会 ロボット教育事業計画委員会報告

15：10－15：30 （ 休憩 ）

15：30 ロボット製品創造のための人材育成

大西 献 （三菱重工業株式会社原子力事業本部主席技師）

16：00 総合討論

（司会）

川村 貞夫\*（日本学術会議連携会員、立命館大学理工学部教授）

これまでの内容について講師と参加者の総合討論

（コメンテーター）

國吉 康夫\*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教授）

17：00 閉会

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（\*印の講演者は、主催分科会委員）

## (提案23)

公開シンポジウム「平等論とデモクラシーの現在」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 政治学委員会 政治思想・政治史分科会
2. 共 催：日本政治学会
3. 日 時：平成27年10月11日（日）13：00～15：00
4. 場 所：千葉大学
5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

平等は、古代ギリシアの政治思想におけるイソノミア（法の下での平等）の概念以来、政治学の伝統の中心概念の一つとして、さまざまな思想の系譜を作り出してきた。とりわけ、近代のデモクラシー論においてそれは、政治に参加する権利の平等として、政治体制を支える原理の中核に据えられるに至った。

しかし19世紀以降、経済上・社会上の平等の確保もまた、デモクラシーの課題として真剣に討議されるようになり、経済的格差の拡大が指摘される現代の日本においては、さらに新たな角度からの再検討が求められている。た現代においては、文化的アイデンティティや性的志向に関する取り扱いの平等性もまた、社会の多様性の維持には不可欠であると論じられるようになった。グローバル化の進行するいま、国際社会における平等についても、真剣に考えなくてはならない。

本企画は、平等に関する以上の現代的状況を念頭におきながら、19世紀以降の思想史的展望を再検討しつつ、「平等」をめぐる新たな問題群について議論することをめざす。

7. 次 第：報告

13:00～14:00

「『平等』問題の来歴—トクヴィルから現代まで」

宇野 重規\*（日本学術会議第一部連携会員、東京大学社会科学研究所教授）

「近代日本政治史における『平等』」

佐藤健太郎（千葉大学法政経学部准教授）

「性の平等をめぐる法と政治（仮題）」

池田 弘乃（山形大学人文学部講師）

14:00～15:00 ディスカッション

コメント：

川崎 修（立教大学法学部教授）

岡野 八代\*（日本学術会議第一部連携会員、同志社大学大学院グローバル・  
スタディーズ研究科教授）

司会：

苅部 直\*（日本学術会議第一部連携会員、東京大学法学部教授）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

(\*印の登壇者は、主催分科会委員)